



平川謙二くん

たしろ しょうた
田代翔太くん
遠賀高校 卒

平川隼大くん
九州産業大学卒

まつおか ゆうき
松岡柚季さん
星琳高校 卒



祝 初 新 卒 社 社 員

この度、新卒社員2名が、弊社に入社して下さいました。入社式の後、1日半にわたり、導入研修を実施し、社会人としての心構えを中心として指導させていただきました。研修後は、倉庫に配属され、現在は、先輩社員の下で日々の業務に取り組んでいます。高校を卒業したばかりの新社会人ということ、社会に出て初めて会社、その社長ということ、これからの二人の人生を左右するほどの影響力がある地位なので、とても責任を感じています。今後は、会社に所属する先輩社員の皆で、大事に厳しく育てて参ります。まだまだ至らぬ点が多々あるかとは思いますが、今後ともよろしくお願い申し上げます。

社長の心根

今月より弊社は新たな事業年度に突入しており、先日の営業会議にて、長・中・短期の目標と方針を発表し皆で想いを共有しました。昨年度は、新たな取り組みやお客様との出会い新たな仲間の入社のお蔭で変化飛躍の年となり、その勢いのまま今期に突入しております。しかしながら、先週末に発生した熊本地震の影響から、現在物流の流れが悪くなっており、現在も現場では混乱が続いているようです。

本来であればこれは、ピンチなのですが、チャンスと捉えなおし、求められる様々な物流サービスのニーズに応え、次につながる様に目先の利に囚われないこと、日々の業務に取り組んでいきたいと思えます。最後に、現在、被災され大変な目に遭いながらも懸命に頑張っておられる熊本と大分の皆様の早期の復興を願っておりますとともに支援してまいります。



取締役社長 平川隼大

感謝



救援物資輸送を実施

平成28年4月14日に発生した熊本地震の余震から2日後の4月16日お昼過ぎに、ホームページを頼りにご連絡いただいた大手メーカーの九州支社より切羽詰った口調で電話があり、『何としても今日中に2t車1台4t車1台の救援物資を、熊本の被災した社員のもとへ送りたい』という、ご連絡を受けた佐々木課長が、自らハンドルを握り、さらに荷降り直後の堺班長も『今行かんでいつ行くんですか!』と言ってくれて救援物資の輸送を行いました。

佐々木課長と堺班長が、自分達で考え責任をもってこういった行動を起こして実行に移し任務を完遂したことに、とても誇りを感じます。その他にも、16日に小倉営業所所属の乗務員の岩木さんが熊本まで物資の輸送を行い、さらに、次の日の17日の日曜日にも、乗務員の高内さんが、同じお客様からのご依頼で輸送を実施しています。自分の休みを削ってまで、被災者の元へ救援物資を届けております。自分ができるか、悩んでいる人に東日本大震災時の復興支援ボランティアに駆けつけた杉良太郎さんのインタビューの言葉を贈ります。

「福祉をやるには確かに時間とお金がかかる。特にお金がないと見栄えのいい福祉はできません。でも、お金がない人は時間を寄付すればいい。お金も時間もない人は、福祉に対する理解を示し、実際に活動をしている人に拍手を送るだけで十分。それでもう五派を福祉家なんです。福祉ってそういうものです。」今後とも、自分ができるところを悩まずに行動に移して支援していきたいと思えます!

歴史と人物に学ぶ

NSPP経営躍進塾資料より

「会社再建王」坪内壽夫翁^⑬

著・野見山 登

革新的な新聞社経営

務台光雄氏・元ノ読売新聞社長は、坪内が次々と革新的な方法を取り入れ再建を果たした日刊愛媛新聞社に大変興味を持っていたそうである。

坪内は高知県からの水の分水問題で溝淵高知県知事に義理があり選挙資金を何期にも渡り支援していたが、その溝淵県知事より高知新聞社の系列の新愛媛新聞社は本社が宇和島市にあり愛媛県南予の読者を中心とした新聞で、本社を松山市に移し県紙として育て上げました。最新鋭の輪転機を導入し、当時は数少なかったカラー印刷も実施し、男女同権の気運に乗って女性記者の大量採用もしました。さらに合理化を推し進めるため、日本で初めて記者が自らがワープロで記事を入力し、コンピュータでタイ化された紙面づくりに取り組みました。又、購読者募集も来島ドック関連企業も巻き込み年2回「購読者募集大キャンペーン」を実施し、一般職から管理職、幹部社員にそれぞれノルマを設定し、ホテル奥道後で表彰式を開催、その度に倍々の部数を獲得していった。しかし、未達成者の社員に対しては全社員の前で「何故、ノルマを達成できなかったのか大きな

声で理由を発表させる。そして次の獲得数を自ら言わせる」といったやり方で、徹底して購読者を獲得させていた。新聞社としては驚異的な50人体制（事務系、記者、営業、印刷工場、他を含め）を実現し購読数も倍、そして半年後にはその倍、さらに倍々を達成していた。新しい新聞社を目指していた務台光雄氏は坪内を表敬訪問して日刊愛媛新聞社を見学された。

ヘビースモーカー坪内の

禁煙談話

坪内翁は日本で初めて船の月賦を思いつき実行しましたが、これには多額の融資が必要でした。主力の伊予銀行に説明に行った際、審査を担当していた菅野松太郎常務から融資の条件として禁煙を求められたとのこと。坪内翁はその頃1日に百本位吸うヘビースモーカーであった。朝、布団の中で2〜3本吸わないと眼が覚めず、しばらく吸わないと手が震えていたそうである。（ヘビースモーカーの私は、突然禁煙の話になりあわててタバコを消しました）審査を担当していた菅野氏と話している最中も、テーブルの灰皿は吸殻で山盛りになり、菅野氏は「タバコは寿命を縮める。タバコを吸うのであれば心配で金は貸せない。タバコを止めるなら融資しよう」と言うのです。

最後に頭が痛くなり口の中がベタベタになるほど1回5本づつ吸い続け、これを機にタバコを断ったそうです。タバコの誘惑にも、奥さんがポケットに入れておいてくれた昆布を噛みながら我慢したとのこと。坪内翁は「完全にニコチン中毒じゃった。菅野さんは本気でワシの身体を心配してくれた。禁煙していなくなったら、当に死んでいたじゃろう！」と感謝の気持ちを話してくれました。菅野氏には子供がなく、ペットの犬を我が子のように可愛がっており、坪内翁に「犬に相続させられんもんか」と真剣に相談するほどであったとのこと。

ヤマハのボート

ヤマハの社長川上源一氏は、ヤマハを創業した父・嘉市氏の跡を継ぎ、若くして社長に就任、30数年間ヤマハのトップとして陣頭指揮を執っていました。その間にヤマハを世界一の楽器メーカーに成長させ、オートバイ事業など多角経営にも取り組みました。ところがオートバイ事業が伸び悩み、業績不振に陥った。当時の静岡県山本知事は、坪内翁に金指造船所の再建を依頼した際に、ヤマハの建て直しも相談されました。早速、坪内翁は「名人は会社にとって敵だ、名人を外せば成功する」と川上氏に強く話すと共に、万能に通じるより特徴のある製品を作るようにと提案されたそうです。造船の素人であった坪内翁が成功したのは、自ら巻き寿司で考えた分割建造法をのみだし、名人がいなくても船を建造できるようにしたり自動車運搬船や冷凍運搬船など特殊船の建造によって業績を伸ばした経緯を話した。

ヤマハの社長川上氏は、人の話をなかなか聞き入れるような人ではなかったそうだが、この坪内翁の提案はすぐに取り入れられ、ボート事業部を発足しピアノを生産していた綺麗な曲線を作る職人をボート事業部に転属させ、今日のヤマハボートを誕生させたのである。川上社長は、坪内翁に感謝の気持ちを込め、自分が可愛がっていた鹿のつがいとヤマハの白いグラウンドピアノを贈られた。鹿は、奥道後ゴルフ場に24〜25頭まで増えゴルフ場の名物となり、ピアノはホテル奥道後の4階ロビーに展示してありました。

歴史と人物に学ぶほど

生きた学問はない！

安岡正篤先生の言葉

次号もお楽しみに！

先月号訂正のお詫び

① 3段目6行目の「半く土佐を後にして」を「南国土佐を後にして」

② 3段目18行目の「水仙を推薦

以上2件訂正させて頂きました。誠に申し訳ございませんでした。

森信三先生の ことば

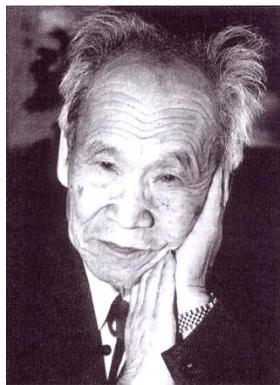
「民族の宿命」

今や人類の進むべき方向に
対して、多少とも示唆を提供
するような民族ないし国民は、
世界の諸民族のうち、われら
の民族ほど、これに相応しい
民族はないのではないかと思
われます。

すなわち東西文化融合の具体
的縮図づくりこそ、われらに
課せられた使命と言えましょ
う。

それは何故かと言えば、第一
にすでにきわめて濃度の高い
共通文化度に達してしるとい
う点、第二に漢文字を自由に
駆使しうることであり、第三
の絶対的条件としては、結局
わが国は島国であるというこ
とです。

(「幻の講話」)



古稀を迎えて!

唐の詩人、杜甫の詩・曲江
(きよつこう)「酒債は尋常
行く処に有り人生七十古来稀
なり」(酒代のつけは私が普
通行く所には、どこにでもあ
る。七十年生きる人は古くか
ら稀である)に由来する。昭
和22年2月生まれでかぞえて
70歳になり古稀という年齢に
達し「俺も年をとったもの
だ」と思う反面あまりピンと
こない。男子の平均寿命が80
歳を超える現在まだまだ気持
ちは若いつもり。しかし、業
界の中ではもう長老である。
いろんな会合に出席しても私
より年長の人は数える程しか
ない。自分ではまだまだ若い
つもりでも体が若い時のよう
にはいかないのも事実、特に
ゴルフに行ったときにドライ
バーの飛距離が落ちたのには
愕然とする。

若い人と一緒に回った時など
飛距離の差に情けなくなっ
たりするがそのことを悔やむと
息子から「年のことを考え
り!」と言われ、「しょうが
ないか」と自分で自分を納
得させている今日この頃。
昨年の6月に社長職を長男に
譲り第一線を退いて実務から

は手を引き現在は別法人の平
川商会の方の経営に全力を投
入している。

昭和51年11月に29歳で社長に
就任して以来、40年弱にわた
り社長業を務めてきた。息子
にバトンタッチして正直ホッ
としている。最近はずいぶん
と肩の荷も下りた気がするし
気持ちも楽になった。息子も
社長になったばかり、良いこ
とばかりではない、むしろ苦
しい事の方が多いかもしれない
、社員と力を合わせて頑
張ってほしい。素晴らしい会
社を作るといふ想い、この想
いは息子が引きついでくれて
いると確信している。まず社
員が「この会社に入ってよ
かったな」と言えるようにな
らなければならない会社を作り
上げてほしいと切に思う。



平成28年4月吉日
平川謙二

フットワークに引かかった
時の悲痛な思い、また、若い
社員が事故死した時のつらい
気持ち、資金繰りに苦しみ夜
中に何度も目が覚めて眠れな
かった時など・・・。
いろいろ思い出されるが今で
は楽しい思い出である。息子
は「平日にゴルフにでも行っ
てきたら」と言ってくれるが
なかなかそんな気にもなれな
いし、また、誘ってくれる仲
間もないが、一日も早く平
日にゆつくりとゴルフができ
るようになりたいと思ってい
る。くだばるのは早い!
まだまだこれからである。
やるぞー!

発行：株式会社 大 安

住所：北九州市八幡西区池田3-6-24

TEL：093-618-5010 FAX：093-618-5021

ホームページ 運送：dai-an-truck.com 倉庫：logi-helper.com



毎月20日 発行